

「鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会」 第6回会議録

1. 日 時 平成26年1月17日（金） 13:00～14:30

2. 場 所 市役所別館4階全員協議会室

3. 出席者

〈懇話会委員〉（18名）

2 梅田 委員	3 江川 委員	4 勝木 委員	5 窪田 委員
6 近藤 委員	7 齋藤 委員	9 佐飛 委員	11 菅谷 委員
		（代理 窪田和博 氏）	
14 高橋 委員	15 西川 委員	17 野上 委員	18 野村 委員
19 橋本 委員	20 福島 委員	21 堀 委員	22 蓑輪 委員
	（代理 齋藤雅幸 氏）		
23 村田 委員	25 吉村 委員		
	（代理 奥田祥也 氏）		

欠席者（7名）

1 宇坪 委員	8 佐々木 委員	10 澤崎 委員	12 鈴木 委員
13 相馬 委員	16 西村 委員	24 山本 委員	

〈福井県〉

交通まちづくり課 白崎 企画主査

〈鯖江市〉

牧野 鯖江市長

〈事務局〉

加藤 総務部長	軽部 総務課長
中村 商工政策課参事	
近藤 総務課課長補佐	

4. 会議次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

【委員から出された主な意見】

- ・ 駅名はPR効果が大きいことから、新しく設置される南越（仮称）駅の駅名選定にあたっては、「鯖江」という表記を入れるよう要望していくべきである。
- ・ まちづくりを進めるうえで、そのまちを共につくりだす「人づくり」が重要である。加えて、そのまちを創り、支え、育む「ものづくり」も必要となる。
- ・ 新幹線では、鯖江に利便性の向上やまちの活性化は望めない。めがねのまちさばえを、積極的に発信すべきであり、チタン技術を活かして新しい分野に進出し、医療器具産業や楽器産業等、精密チタン加工の集積地として、新たな魅力ある鯖江のまちづくりを検討すべきである。
- ・ 産業面、観光面やまちづくり面における、鯖江の「売り」を見つけ出す必要がある。
- ・ 全国配信するメディアを活用して、鯖江市をPRすることが重要である。
- ・ サンドーム福井など集客力のある施設を有効活用し、その施設へのアクセスをよくする必要がある。
- ・ 「道の駅」を観光客だけでなく、市民が集える場所としても活用するべきである。
- ・ 鯖江市のまちづくりの方向性を検討するため、若い人の意見を聴く懇話会などを継続的にやっているとよい。
- ・ 鯖江が忘れ去られてしまわないためにも、ここ10年間ががんばりどころである。30～50歳代の人たちが検討に検討を重ねて、新幹線の駅がなくても、わざわざ訪れたいくなるような魅力的なまちづくりを推進していくことが、絶対に大事だと思う。
- ・ 鯖江の歴史、伝統、文化を守っていき、鯖江の良さを見直すべきである。
- ・ 「さばえドック」のような、鯖江でしか味わえないグルメをつくり出す。